

西宮市議会議員

まさたけ

初志をいつまでも忘れず
行動し続けます。

田中正剛

市政・市議会報告

<http://www.masatake.jp/>



税金のゆくえ ～自分が払った税金がどのように使われているのか

近年、財政状況は良くなっていますが、課題も山積しています。
将来への備えとして、一層の財政改革が必要です。

先般、高速道路のトンネルの天上板が通行中の車両に落下し、多くの方が犠牲になるという事故が発生しました。これは、道路や公共施設など社会資本を作ることばかりが賞賛されてきたこれまでの政治の責任と言っても過言ではありません。私はこれまでに、財政改革を主張するなかで、市が進める行財政改革において、市が管理する社会資本の維持管理経費が無理に抑制され、計画していた大規模修繕も先送りするなど、維持管理がおざなりにされていることを懸念していました。そこで、平成18年に「公共資産のアセットマネジメント」の必要性について本会議でいち早く取り上げました。そして、学校や市営住宅、集会施設などの建築物のみならず、道路や橋、上下水道施設、公園などの公的資産の状況を全市で一元的に把握し、維持管理や改築を計画的に着実に行う体制を構築すべきであると提案しました。その後、平成19年のアメリカでの橋の崩落事故を契機に、市内の橋の安全点検が進められ、現在は「橋梁長寿命化修繕計画」を策定して工事が実施されています。また、ようやく「公共施設マネジメントのための基本的な方針」も取りまとめられ、公共の建築物、いわゆる“箱モノ”の今後の維持管理や再整備の方針が示されました(「TOPICS」に概要を掲載)。

平成23年度の決算は下表のとおりであり、約36億円黒字でした。しかし、社会資本の維持・更新に要する財源は、たとえ効率化しても年間平均100億円以上となる可能性が高く、また、近いうちに耐震化が必要な施設も多く、それらの財源の捻出が大きな課題になると考えています。先般の衆議院選挙で政権が代わり、社会資本の老朽化対策に対して国の補助金の増額も検討されています。本市においても、一層の財政健全化を進め、市民の生命・安全にかかわる事業に対して、最優先で財源を割くことができる財政構造へと改革する必要があります。今後も、将来世代に問題を先送りし、負の遺産を残すことのないよう政策を提案します。

■表：平成23年度決算 ()は全体に占める割合

一般会計		決算額	前年度比較
内訳	収入	1,726億円	124億円増↑
	市税収入	818億円(47.4%)	0.2億円減→
	借金	173億円(10%)	42億円増↑
内訳	支出	1,687億円	124億円増↑
	人件費	336億円(19.9%)	14億円減↓
	扶助費(福祉)	397億円(23.5%)	27億円増↑
	投資的事業	215億円(12.7%)	96億円増↑
借金残高		1,703億円	37億円減↓
貯金残高		207億円	19億円増↑

教育環境の向上は学校だけに求められるものではありません。 普段の生活の中で子どもの運動や勉強を促す環境づくりも重要です。

昨今、いじめの問題が頻発するなか、私は、幼児期の遊びや自然体験など様々な実体験を通じた情操教育が重要であり、普段の生活で多様な体験ができる環境整備が必要と考えています。9月議会で取り上げた「幼児期と学童期の居場所・遊び場づくり」について、概略をご報告します。

■放課後子ども教室の充実によって、学童期の子どもたちの健全育成を！

放課後子ども教室※は、自由遊び型、イベント教室型、学習支援型など、実施形態は地区によって様々ですが、平成23年度には市内で736事業が実施され、大幅に拡充しています。しかし、地域主体で取り組まれていることから、各地区で実施回数に大きな差があり、子どもたちに実体験を提供する講師や学習アドバイザー等のボランティアの確保の問題など様々な課題を抱えています。そこで、市のサポートや事業拡充に向けた姿勢及び各種ボランティアの確保のための、事業と人材を結ぶ仕組みづくりについて質問しました。教育委員会は、**今後も事業の定着と拡充を図るとともに、元教員など専門**

知識をもった方を有償ボランティアのコーディネーターとして配置するなど、事業と人材を結ぶ仕組みづくりについて検討すると意欲的な回答をしました。また、児童館との連携による拡充についても前向きの回答を得ました。

※放課後子ども教室の目的

すべての子どもを対象として、放課後や週末等に小学校のグラウンドや教室等を活用し、地域の方々の協力(運営委員会・コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザー等)を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

■地域偏在が問題となっている児童館の今後の方向性を定めるべき

市内に9館ある児童館は、維持・運営費に年間約2億円を要する一方で、一部の地域にしかないという、地域偏在の問題を抱えています。児童館の機能は、利用者目線で考えると概ね各小学校区に1か所ずつ必要であると考えています。しかし、新たな施設整備による拡充は財政面で困難であることは明白です。現在、未就学児童を対象として、公民館等で行われている子育て地域サロンや、幼稚園・保育所で行われている園庭開放など、様々な子育て支援事業が実施されています。そうした既存の施設・事業や、放課後子ども教室を拡充し、保護者に対する情報提供を強化すれば、児童館の機能は全小学校区に拡充することが可能です。また、児童館は老朽化対策や耐震化の必要があるほか、事業を拡

充のためには財源の確保も重要です。そこで、児童館の今後の方向性について質問しました。市は、小学校区ごとの居場所については、各地域での子育て支援活動とも連携し、身近な地域における親子の居場所や子育て支援の充実に取り組むと回答しました。そして、児童館の方向性については、整理統合も含め、今後のあり方について総合的に検討するとの考えを示しました。



公園は何かと規制が多く、思い切り遊べないという声も聞かれます。子どもたちが思い切り遊べる空間の確保が必要です。

■安全性の確保のために、学童保育施設の老朽化対策も喫緊の課題

既存の留守家庭児童育成センターは着実に老朽化が進んでいます。中でも最も古い安井育成センターは築後31年が経過し、新しい育成センターと比べると環境が非常に悪く、子どもの生活の場として機能面で問題が生じつつあります。そこで、待機児童の解消に追われ、おざなりにされている老朽化対策について質問しました。市は、今後、一定年数が経過したセンターの建物自体の安全性を確認した上で、改修や改築などを検討すると回答しました。



老朽化した施設と新しい施設の両方を現地視察し、その環境の違いを確かめました。

■子どもの居場所づくりに関するビジョンと計画的な取り組みが必要

その他、学校施設の有効活用に向けた方策、幼児期の育ちに関わる「幼児教育振興アクションプログラム」の策定の必要性についても提案しました。そして、公園も含めて「(仮称)子どもの居場所づくり推進ビジョン」を策定するなど、居場所づくりに関する今後の方向性や必要財源などを明示し、計画的に着実に事業を推進する体制を構築すべきと提案しました。しかし、場当たりの行政運営を続けてきた市からは、明確な回答はありませんでした。引き続き、子どもたちの健全育成のために、提案を続けてまいります。

来年度(平成25年度) 予算編成に向けて、会派で意見をまとめ、市長に対して、政策提言並びに要望を行いました。

会派でまとめた予算要望のうち、私が本会議一般質問や委員会での質疑で取り上げ、市と重点的に議論してきた内容を中心に掲載します。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

■最重要項目

○項目:西宮市立中央病院について(「給与費比率54%」が達成可能な給与制度の導入、県立西宮病院との統合議論の再開等)／アサヒビール西宮工場跡地のまちづくりについて

■行政改革・財政改革関連

○項目:入札制度改革の推進／市税や各種負担金等の滞納解消／給与システムの適正化／民間委託・民営化の推進(家庭一般廃棄物の収集業務、学校給食の調理業務、公立保育所の民間移管等)／全庁的な公共施設マネジメントの推進など

■子育て支援・教育環境の向上関連

○項目:幼稚園行政の見直し(保護者負担の公私間格差の是正、公立幼稚園の経費削減等)／小学校全普通教室へのエアコンの設置／安井小学校の校舎と体育館を結ぶ渡り廊下の設置／基礎学力向上事業の充実／図書館運営への指定管理者制度の導入と開館時間の延長／スポーツ推進計画の策定／児童飽和を防ぐための学校用地の購入など

■安心・安全のまちづくり関連

○項目:小学生の登下校時の防犯・交通安全対策の推進／歩道の傾斜・波打ち解消の推進／歩行者の安全対策の推進／計画的な道路・橋梁の維持修繕の推進／防災対策の実施／阪急夙川駅周辺の交通課題の整理／総合交通計画の策定など

■自然環境・生活環境関連

○項目:良好な海洋環境の保全(水質改善・大阪湾再生事業への積極的関与、御前浜周辺整備計画の策定等)／快適な市民生活に関する取り組みの充実(カラス被害の把握と対策の実施、所有者のいない猫に対する取り組みの実効性の向上)など

■福祉関連

○項目:乳幼児等医療費助成の所得制限の撤廃／24時間小児救急救命体制の整備／生活保護制度の運営改善など

■産業振興関連

○項目:市内企業・産業の育成／都市型観光事業の効果の検証など

「公共施設マネジメントのための基本的な方針」が確定しました。

先般、「公共施設マネジメントのための基本的な方針」が確定しました。これまで私が提案してきた内容が多数盛り込まれました。概要は下表のとおりです(紙面の都合上抜粋)。対象となっている施設は518施設、延床面積約149万㎡となっており、そのうち41%が築後30年以上経過しています。このままでは、今後50年間で改築・修繕に約4,940億円(年平均約99億円)の費用が必要と試算されています。そして、この方針に

基づいて取り組みを進めることができれば、施設がボロボロのまま放置されることもなくなり、年平均約19億円もの経費削減が可能になると試算されています。方針には施設の統廃合も含まれており、改築・修繕の財源確保のめども立っていないなど、今後この方針を具体化した計画を策定するには、様々な課題が残されています。引き続き、市の取り組みを注視する必要があります。

	維持管理の最適化	性能の最適化	機能の最適化	総量の最適化
方針	日常の維持管理業務を効率化し、経費の圧縮を図るとともに、施設の状態を良好に保ち利用者の快適性を高める。	中長期的視点から計画的な保全整備を行うことで、維持・更新の合理化を図り、施設の長寿命化を図る。	有効活用されていない施設を、将来的な需要も視野に入れ、用途転換や複合化など施設の再配置を進める。	施設の性能・機能や将来的な需要などを踏まえて、余剰となる施設の再編・処分等を行うことにより総量の削減を図る。
目標	・維持管理費を今後5年間で10%以上削減など	・施設の長寿命化に向けた計画的修繕の実施体制の確立など	・機能再編により施設の利用満足度の向上など	・施設総量(延床面積)を今後20年間で10%、50年間で20%削減

アンケートへのご協力ありがとうございました

前号でお願いしましたアンケートに対しまして、多くの方にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。アンケートの結果につきましては、別途報告書を作成し、お届けいたします。

私は、初めての選挙の際に、皆さんの声に耳を傾け続けると約束しました。そして、市民の皆さんとともにこのまちの将来を作っていくために、広く意見を伺いたいと考えています。そのために、今後も

不定期でアンケートの聴取を実施したいと考えております。市政に反映できるよう努力してまいりますので、今後ともご協力くださいますようお願いいたします。

※匿名でご協力いただいた方に対しては、報告書をお届けすることができません。ご希望の方は、事務所にも用意しておりますので、ご連絡ください。

◆意見交換会も定期的に開催しています。下記連絡先までご連絡いただき、ご案内の送付先をお知らせください。
※後援会活動とは異なりますので、お気軽にご参加ください。

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選 ■政党: 保守系無所属 ■所属党派: 蒼土会 ■現在の担当常任委員会: 市民文教常任委員会 ■市議会での主な役職: 建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1年目～)

ご意見・ご要望・資料のご請求は

西宮市議会議員 **田中 正剛** 事務所
〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14 光永ビル3階
(兵庫県西宮庁舎南向かい)

TEL: 0798-22-5172

FAX: 0798-22-6172

E-mail: nishinomiya@masatake.jp

URL: <http://www.masatake.jp>

